アステールプラザ神楽鑑賞会

日本武尊

ヤマトタケル

一幕【熊襲】琴庄神楽団（北広島町）

二幕【草薙剣】大塚神楽団（北広島町）

三幕【新作・走り水】宮乃木神楽団（広島市）

四幕【伊吹山】大塚神楽団（北広島町）

平成28年5月22日(日)

開場 12:00 開演 13:00 終演予定17:00

JMSアステールプラザ中ホール

広島市中区加古町4-17

全席指定　1階席 3,000円　2階席 2,000円

チケット販売
4月9日（土）発売開始！

JMSアステールプラザ　082-244-8000
エディオン広島本店　082-247-5111
ひろしま夢ぷらざ　082-544-1122
北広島町観光協会　0826-72-6908

主催：ひろしま神楽鑑賞委員会、(公財)広島市文化財団アステールプラザ／後援：広島市

お問い合わせ JMSアステールプラザ　Tel.082-244-8000 広島市中区加古町4-17

アステールプラザ神楽鑑賞会

ごあいさつ

1993年5月、アステールプラザで『スーパー神楽中川戸』という、文化ホールでは初の神楽団による自主公演を行いました。これが、感動のある魅力的な神楽をめざした『舞台芸術・神楽』の原点でした。のちに広島神楽のルネッサンスといわれ、伝統的な郷土芸能を創造的に伝承する意識改革を促し『神楽文化』が若者へ浸透する起点になりました。

アステールプラザ神楽鑑賞会は、戦後70年の神楽の歴史を大切にしつつも『郷土芸能の伝統を創造する』ことを視野に入れ、広島神楽の未来を探ろうとするものです。

どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。

ひろしま神楽鑑賞委員会

一幕 熊襲（くまそ） 琴庄神楽団（北広島町）

第12代景行天皇の皇子・オウスノミコトは、朝廷に従わない南九州の部族・熊襲平定の勅命を受けます。オウスは、初陣を前に、伊勢神宮を司る伯母のヤマトヒメから女の着物をいただき、九州へ向かいます。

熊襲の地へ着くと、部族の首領・カワカミタケルは館の新築祝いの最中。オウスは舞姫となって祝いの宴に忍びこみ、タケルに酒を盛って油断させ、懐に隠した剣で斬りつけます。タケルは息絶え絶えにオウスに向け「あなたこそ大和国一番の勇者。これから我が名タケルの名を取り『ヤマトタケル』と名乗られよ」と言い残し、息を引き取ります。

ここに日本武尊（ヤマトタケル）が誕生します。

二幕 草薙剣（くさなぎのつるぎ） 大塚神楽団（北広島町）

南九州の熊襲を討ち、大和へ帰るヤマトタケルが出雲路（島根県）にさしかかると、出雲武（イズモタケル）が行く手を阻（はば）みます。これをヤマトタケルは、立ち合いの下に難なく討ち果たし、大和へ凱旋（がいせん）しますが、休む間もなく東国平定の勅命が下されます。

そこで再び、タケルが伊勢神宮を訪れると、今度は天照大神から授けられた天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）と火打石の入った袋をいただきます。

タケルはご神徳のある剣を手にして、東国へ向かい相模国にさしかかります。相模国の部族は、一行を野に誘い出し、火攻めにあわせます。タケルは、迫りくる火の中で剣を抜き、野の草を薙（な）ぎ倒し、火打石で火を放って迎え火とし、難を逃れ部族を討ちます。

このとき、タケルの一行を救った天叢雲剣を讃（たた）え、剣の名を『草薙剣（くさなぎのつるぎ）と改めます。

三幕 走り水（はしみず） 宮乃木神楽団（広島市）

ヤマトタケルは、相模国を平定してさらに東国へと進みます。そして、走り水（東京湾入口）から上総（かずさ＝千葉県・房総半島）へ船で向かおうとします。船が港を離れると波は次第に荒くなり、走り水の名のとおり、潮は南北に激しく走るように流れます。これまでの戦いで討ち果たした者たちの怨霊がこの波の底に集まり、タケルを荒海へと引きずり込もうと襲いかかるかのようです。

底津王（そこつおう）と霊怪士（りょうのあやかし）という恐ろしい海の鬼神は、タケルにとって一番の宝物をいけにえに差し出させようとします。それに気づいた后（きさき）の一人・オトタチバナヒメは、タケルの武運を祈って自ら荒れ狂う海に身を投げます。するとまたたく間に、海は青く静かになり、船は無事上総の地に着き、東国平定へと向かったのです。

四幕 伊吹山（いぶきやま） 大塚神楽団（北広島町）

ヤマトタケルは、東国を平定し、ふるさと大和へ帰る途中、尾張国へ立ち寄ります。そこで、后の一人・ミヤズヒメとの再会を喜ぶのもつかの間、伊吹山の荒ぶる山神を退治せよとの勅命を受けます。タケルは勝利を信じ、ご神徳ある草薙の剣は持たず、妖気漂う伊吹山を登り、山神の毒気を受けながらも激しい戦いの末に山神を討ち取ります。

しかし、精気を奪われてミヤズヒメの元へ帰ることができず、ふるさと大和の方角へ最後の力を振り絞って歩き続け、能煩野（のぼの＝三重県）で息絶えたのです。

『やまとはくにの　まほろば　たたなづく　青がき　山ごもれる　大和しうるはし』

（訳：大和は国の中で一番良いところだ。重なりあった青い垣根のような山々に囲まれた大和は、本当にうるわしいところだ。）

タケルは、短く壮絶な生涯の終わりに我がふるさとをそう讃え、魂は白鳥となって大空へ舞い上がり、大和へ向かったと伝えられています。